

山梨県酒造組合

県酒造組合と旅館女将が

コラボ

ACTIVE KUMIAI



第3部会場風景

10月1日にホテル談露館において、甲斐の地の酒の試飲とセミナーの主催。山梨県酒造組合を開催し、甲府ホテル旅館協、湯村温泉旅館協、石和温泉旅館協の女性部等会員、県内ホテルや旅館の女将など約30名が参加した。

10月1日は、日本酒の日であるが、これは日本酒

造組合中央会が制定している。その理由は、酒という字は、「酉」と「り」に由来し、十二支の10番目は「酉」であり、また「酉」の文字は、酒壺の形をあらわす象形文字で、酒を意味することから、この日にあわせて全国の業界が各種行事を行っている。

県酒造組合では、例年10月1日前後に、女性をターゲットに各種イベントを展開しており、今年度は、第1部では、甲斐の地酒の試飲、8社×3種類、第2部では、農学博士の渡辺正平氏による「お酒の美飲学」と題した講演、第3部では各社による5分間PRを聞きながら、料理と美酒を堪能した。



説明を聞きながら試飲する参加者

日本酒は、昭和60年頃までは30%を超えるシェアがあったが、現在では、ビール、焼酎等に押され、10%を切るほどである。各酒造メーカーは、消費が減少している中、原料である酒米づくり、酵母の見直し、製造方法などに工夫を凝らし、特色のある県産日本酒造りを行っている。県産米、水、酵母など100%県産原料による日本酒の競演が楽しみである。